

令和5年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校名(北海道静内農業高等学校)

1. 取組についての評価

生産科学科の生徒4割が道外からの進学者だというのは、この学科の特殊性をものがたっている。生産科学科でも、地域外からの進学者が多い。それとも関わって、生徒がインパクトのある学習に積極的に取り組んだのだと感じた。また、その中で、従来の高校では難しかった新しい教員の育成が行われたというような話は、傾聴に値する。「事業の中で…農水省の課題を絡めて考えるようになり、農業高校の果たすべき役割について考え直した。卒業生を未来の人材として尊重して接するようになった」というようなアンケートの回答は、素晴らしい。

Osとアプリに例えた学校、企業、役所の役割についての見方はおもしろかった。生徒に対するアンケート調査の結果は、それを表しているように思う。地域課題の発見と問題解決、その中でのIoTの活用などについての反応が大きく伸びている。また、それに企業との交流が影響したことが見て取れる。自走後も、このような取り組みが継続されるべきことを表している。企業からの意見にも、生徒の成長や変化についてのことが述べられており、また企業にもメリットがあったことが認識されている。このような感想が学校内にとどまらないで、商工会など多方面に知られると良いと思う。

2. 今後の課題と考えられること

地域外からの進学が多いということを生かすならば、どのような学校でどのような学習が行われ、卒業後はどのようなキャリアに進むのかということを広くアピールすることが重要だということになる。他地域からの就農に対して、希望や意欲をもてるように、生徒自身が情報発信するような仕組みを重視したい。

地域の生徒に対しては、フランスやアメリカからの短期留学生、フランスへの短期留学などを通して、大都會のイメージと比べたときの地域の良さを実感できるようにしたい。

自走に関しては、カリキュラムのスリム化を計画している。もちろん取捨選択は重要だが、地域にとっては地域人材の育成機能がかなり明確だと思えるので、従来よりも連携先を広げて、学校評議会などの形で営農家などのリソース提供ができる方々を巻き込んで学校をより立てる方法を考えたい。